安政農句六百題 秋之部目録

雜地之部

文月一　秋立、　七月の秋二　七日の秋、　初秋、
殘暑、　初嵐三　稲妻、　蚊火、　七夕口
星の雪、　星合、　銀河五　横流、　魯の月、
生駒颪、　二百十日、　角力、　露、
雪形七　秋雪八　八月、　八朔、　夜長九
夜寒、　鳥瞰、　野分、　秋の暮十　初汐、
秋の水、　初月、　三の月十一　月見、　名月、
そらまめ十三　月の雪、　月の雲、　雨の月、
十六夜十五　秋の月、　九月、　重陽、　居月、
秋の色十六　秋の山、　秋の川、　秋の雲、
竜田姫十七　行秋、　秋の雨、　秋日和十八

植物之部

桐の葉十八　桐一葉、　茨稿、　木槿、　蘭菊十九

新穀、 苗の穀 二十 稗 粳、 女郎穀、 芭蕉、
蕎麦、 野仙穀 廿一 稲の穀、 淡柿 萩、
芭 廿二 蕎麦 廿三 なすの穀、 甘柿、 初子の穀、
牡丹の葉 廿四 蓮 苑、 穀 粳、 尾花 廿五
蕎の穀、 爲仏、 稲、 菌、
新菓 廿六 菓、 赤うき、 紅葉、 木の実 廿八
栗、 柿、 廿九 柿もとき、 落ち葉、

生類之部

玉 | 廿九 蕎 虫 三十 蕎麦虫、 蛉虫、 蜻蛉 卅一
蜻蛉、 卅二 秋の蝶、 いとゝ、 蜻蛉、 秋の蝶、
蜻蛉 卅三 蕎、 四出蕎、 鬱、 蜻、
蕎の花 卅五 爲、 沙金 卅四 うし、 蛍、
蛍の子 卅七 おく手、 稲雀 卅六 渡り鳥、 蛍、
川蕎、 初鴨、

衣食之部

搗衣 卅七 新酒 卅八

神祭之部

祝儀 卅八 草市、 玉祭、 迎火 卅九 燈籠、
殺生 殺生、

一題一句等迄物之部

冬之部

乾坤之部

十月一 初冬、 小春、 冬日二 木枯 三
初雪 口 冬籠 五 冬構、 炉塞、 寒し 十 冬の雨、
雪 六 冬車 九 氷、 寒月、 冬の月 十一
冬の雨 十一 冬の川、 山茶、 巨燵、 埋火、
火桶、 おこし 十二 炭、 霜月、 冬の空 十三
寒入、 寒、 氷柱、 薄氷、 雪の花、

冬夢、

植物之部

籬菊 十四　本菊数、　菊畑、　山茶花 十五　帰花、
菊葉茂、　冬の梅 十六　冬梶、　枯柳、
八ツ手、　冬牡丹 十七　枯芭蕉、　枯芦 十八
石蕗花、　麦苗、　大根曳、　冬仙 十九
冬菖蒲、　寒梅、　枯蓮 二十　冬四、
生類之部
多々良 二十　隠岐多々、　鶴 廿一　千鳥 廿二　鴛鴦 廿三
鯨、　鰤、　鯛、　鮫、
衣食之部
紙衣 廿三　于大根、　冬瓜 廿四　切　于、　茶粥、
神鶏之部
水の芋 廿四　芭蕉忌、　連ヶ忌、　卯命講、　十夜、
恵方講 廿五　狐　卯、　里神祭、

茶春之部

沙玄 廿六　猟 八、　菊摩、　徳拝、　苦労 廿七
尼拝、　衣配、　蓬餅、　麦酒、
寿狩、　大晦日 廿八　歳忘、　年の夢、
歳夢、　行年、　除夜、
一題一句多色加之部

附録之部

題録論つゝき　一　題　画三　漫録 四　紀行 六
名所 九　古跡 十　送別、　日記 七　紀行、
賀、　哀傷 十三　情 四十五　遠情 十七
狂題、　雑歌 十九　物名 二十　冠、　月録、
雑題 廿一

安政歳旬六百題

秋之部

文月　文月やそのを出ふの萩すゝき　澤月

文月やはつ尾の穂の白ゆふ　夷泉

文月やあつ風ふきしをれつゝ　峰雲

文月の空ゆ出ふの月ふかし　葉月

文月やはつ尾の穂の白ゆふ　湖春

秋立　秋立と思ふ夕べの雲の色　龍將

物ゝゝ山の白雲　石丸　三草

秋ゝ川やそこ迄ゝる松の雪　雪潮

日比いろれそそくの秋の海
そのもとや嶮岨と咲く秋の山
秋立や蓬ふさぐの小屋
物くさいやさとし一百九邑しなと
あきくさいやさとの井の手の雪
懶離しや秋立雲のさんさめる
秋立や波よりのぼりの山
咲くさくさ秋八たくさと海の雪
あくさ立やゆきくさ紫れるよ
秋きくさや秋立波をまくさ文
物くさいや唐の立蓬し人の白

巨日　雪兮　大江　曙蘭　松雪　一馬　嶋山　十弦　松泊　芸蝶　嶮岨

秋立や沼を咲かせあきの蓬
物くさいや立月くさくさ文くさ雪
と雪の秋　と雪の雪く海くさの秋の秋きあくさ
蓬立くさくさ深しくさくさの蓬
あくさくさ立雪立くさくさくさの秋
咲くさ咲くさく山くさくさくさの秋
きくさ咲くさの雪くさ蓬咲くさの秋
変白れくさくあくさや雪くさの蓬
雪日比秋　日雪比雪と赤雪くさ秋くさ比秋
松くさくさまくさ咲くさ雪あくさ雪咲　秋
物秋や月雪雪蓬くさ蓬の蓬の蓬

一の蓬　日織　西馬　外山　柳亞　曙蘭　松泊　三友　子美　孟文　蘭庵

初秋やせんしのうハ光ひすて　斐
初秋の宗にはくゆるやたもとく　玉碩
初秋や十日ハ新まり畑の黍　卓路
きのふ秋や出水のあとの老に聲　一馬
初秋とつくりやそて雪月の星の照　文斛
初秋やきのふの白露あつさ文二字　丞雅
まつ秋や名ハ簾前の只白し　不二丸
初秋や夜の蝉の音もうつりまする　峰堂
初秋や団扇忘れと只居ぬ　信多

残暑

そよ風とあひあひ残暑かな　大蟻
入る月に桔の葉ちりまする残暑かな　亀得

残暑の夕暮のもえ　子枝
まつ東も夜の草の花　嵐久
身の毒にせよ秋来て暑し　桂之

初嵐

つゆまてちらす涼しやあけし　岩月
深山草静に吹き初嵐　三ちと
なかの羽もちらぬ嵐　湖雪
いきり火の根に初嵐　文交

稲妻

去堤の稲つまのきて消えけり　芹舎
稲妻の夕くれて海の空　箕栽
いなつまのやつき弱し　雄卿
稲つまや湖の北へ走る　清之

花火

巨月
夷岳
不宗
墨二
夏祐
芳月
文友
梅一
一の郭
至渓
千年

七夕

青苗
保図
松秀
和壽
遠山
隆望
田家
仲山
甘蔗
志月
東岳

七夕や天の川原の砂の上　志孝
七夕や帯ときかねる恋の中　如壺
星合の雨　出雲の国八雲の里の雨星合の雨　龍雄
星合の雨の惜しき明の星　文舟
星合の雨の惜しき明の星合の雨　海子
家の上に星合の雨八月一日星合の雨　如壺
星合の雨の上や雲の中　田鶴
星合の雨の上や雲の中　月丸
星合や雨の上の雲の中　嶽山
星合や雨の上の雲の中　柳塵
つい立てに明の星合の雨　兼山
時雨の雨の星合の雨

天の川

天の川　天の川の川の上や天の川　孝吉
天の川の上の雲の中の川　孟春
天の川の上の雲の中の川　精蕃
天の川の上の雲の中の川　東雲
天の川の上の雲の中の川　春志
帆掛舟の上の雲の中の川　ちゑ
すきまもなく星の雲の中の川　雅白
すきまもなく星の雲の中の天の川　波月
雲の上の雲の中の天の川　保門
雲の上の雲の中の天の川　松白
雲の上の雲の中の天の川　三光
明やすらふ神奈川の天の川

[illegible]と言葉をとりて川　雲海
[illegible]　嶺邨
硯洗ひ　唐と硯洗ひて[illegible]祭　玉碩
[illegible]の[illegible]　十藻
[illegible]　[illegible]　氷壺
[illegible]　[illegible]　[illegible]
名の月　[illegible]の月　世負
[illegible]　[illegible]の[illegible]　玉項
[illegible]の[illegible]の盃の月　芦鶴
[illegible]　[illegible]　陸月
生卯魂　足[illegible]八多く[illegible]生卯魂　目林

[illegible]人の[illegible]　玉井
二[illegible]の[illegible]　玉　和竜
[illegible]　[illegible]　柳壺
[illegible]の[illegible]　井子
[illegible]の[illegible]　[illegible]　[illegible]支
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　文帯
[illegible]人の[illegible]　[illegible]　松洞
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]岳
[illegible]　[illegible]　[illegible]　松香
[illegible]　[illegible]　[illegible]　嶺堂

踊

二百十日

角觝

露

玉碗
雪枝
拙く
思ふ
一亭
西藝
白鷗
遥河
雪枝
丶
梅雄

唐山
玉清
翠南
外宕
芳掬
文斜
芳房
飛人
淡山
雪蹊
春和

野

市野　梅渡　芋石　山路　甘藷　十隈　負薯　墨江　芦九　北壽　目抜

秋望

警戒　古巣　玉蕊　果窟　文理　芝業　麓陽　寄吟　五十吟　克吟　伴与

八月

八朔

[illegible]　左雲　定席
雲山　万翁
水壽　蓬宿
東雲　一亭
文車　一時

夜長

夜寒

[illegible]　仲子
法筍　抱素
海月　琴城
左琴　岩山
松陳　琴城
人　蓑雲

霧

田の面を夜舟の霧くよ露まつ　愛武

霧こめや声ばかり和松のなかの舟　涼月

霧ごもや浮気尾へ通ふ行く馬　加吉

朝霧やちらり向ふに山一つ　梅楼

あさぎりや舟へとあがる霧をかな　季史

霧の中に素足でさらす秋の月　暁英

霧晴て明き寺ゝの鐘もなし　意外

朝寒や障子を通す水の音　波月

戸口から舟出す家の霧かな　立宇

野分

海士人の取る一本る明日の船　五和

秋の暮

鴉の尾ふみとゞまる明日の秋　東扇

さびしさや明日の秋のしらぬ旅　蘭舟

旅寝する馬にかげ見る秋の暮　権石

稲妻のたよりある秋の暮　雲里

日くれ行思ひ出と秋の暮　山雪

狩人の見送る寒し秋の暮　雲雀

木の葉北へ散るや秋の暮　雲峰

鵙なく人よ馬や秋の暮　大家

淀あたり子の戯り梁秋の暮　楼縁

見上げし山の若葉秋の暮　十路

行あきて庭先にたし秋の暮　東茄

つゆやつれし市場ならびに今朝の秋の聲　乃ゝ

ちらり根よ見し鳴門の瀬や鰯のよせくり　嵐蘭

初汐

初汐のさし込む折や岩のまくり　孤雀

よる汐や蹄の跡ふみ物を岩　蘿窓

初汐よ足もとをきゝし鷺も哉　雪蹊

秋の声

影ぞなき小雨をきゝし秋の声　素屋

思ひ見草踏みし秋の声　乙良

初月

初月や宵もいそぎてまいりつ　六樵

初月よ夜さきめぐる川原哉　波蹄

ちる川月やかしこ入りし花から　不二丸

初月やまだ日のなきのごとし哉　文栲

初月やあさきしぐれの舟　松堂

三日月

水影あふぎ見る夜の月　組々

日の入てなきのよしや三ケ月かな　山雪

三ケ月は見せ草やのちの手事　羽長

馬おりて見ゆるし三ケ月　芭蕉

月見

ひとりも居て月見の哉　北窓

八まんのかたは見えてゐる家　泰蕉

松さし影の月見る隈　酒家

一夜の月見よる大寒　喰雪

近くまた月見かな　文樹

川ぞひ月見かな　柳雪

名

名月や海と空との上　宋山
名月や石垣の間の上　見外
名月や浪の上なる川　世負
名月を捨てしこの川　甘棠
名月や舟をとらるる嫁つくる　松宵
名月や頭をつくる仕業　古業

名月や竹やあるまきの二筋ばかり　晨外
名月や竹をたたかるるかはをつし　青梧
名月やあるくあるくやそこらの木株　巴無
名月や海を出でそめるうらの味　加青
名月や海をいでそめるうらの味　乎志
名月や竹をたたかるるかはをつし　文芳
名月や竹をたたかるるかはをつし　種函
名月や山せくうらの月の夫　東菊
名月や山せくうらの月の夫　十隙
名月や月をハつるかとまつ　素月
名月や月をハつるかとまつ　一星

名月や山桜よりふるさとの
名ごりの雪ちるとみるまで　桜木
名ごりやうりの花咲き　変素
名月や形ことなる赤とんぼ　一摘
名月やこゝろ明るき山のいろ　登竜
名月やこゝろ夜すがら山を人　影徳
名ごりや方うつれる雲の手　星嶋
名月やとんぼうつれる久方の　雪牛
名ごりや東こゝろ樽ぬけ　一嶋
名ごりや雪ゆく樽の人　方泉
　　勝星

今日の月

名ごりつゝ人井てくけかゝ一雪堂
名月の雲をとゝまるかきこゝろ　吳山
めいりつゝ雲ゆく月の一くも　智角
名ごりや三尺の花赤ゆく形　一夢
名月やこゝろ白ふたりやすれ　泳素
やのかゝる月をくゝ明るきまゝ　西馬
ふるさとの山ぬけ明るかりつゝ　巨月
名ごりの月やこゝろ雲の月　牛林
雪かくれ月やこゝろ晴やこゝろ　三友
明るかきゆ雨ぬけ一雪ちるの　陰子
明のこゝろかぬけ八雲ぬけこゝろ　晴山
　　芳枝

さく坊は義仲も平家物か今宵の月　米之
酒よりもまづみる樽や峠の月　一瓢
まつ人を庭へまねきたしこよひの月　菱二
明海の夜に出てなかるる月　松濱
松風と小松に出る月や路の月　十條

月今宵

明かかかれ月に文通世は月を宵　世貞
月こよひ千とせの素き人に行の月　清喜
月を雪月田毎の名は浅き明し　呂成
こその影の明ても夜よし上に月　麦童
月も夜も月松の又見に小倉山　雲峯
峯を海と思ふ月こよひ　然々

月

見にりもえ江の真中に名月こよひ　米之
弁当や月の出しままたる影籠　孤舟
名月と月見に出しその月の夜　文雅
散しる思ひ深く遊びていきの月　文帯
居るまゝ八雲にかゝる月見む月　稚白
其影の名よ又なる月の影　十條
行きや雲の月の出る名月　嘯風
其里と詠む月見の月こよひ　月栖
呼ぶる影あき月出し月の影　江下 無外
露こゝ又も月の輝居来　音人 秋葉
今日の月の十五夜　月枠

月の雲

踏迷ふ人も芒の夜山の月　雄飛

月と雲並ぶ柳の風もなし　古森

露の文木の間明るし月の影　雯童

行まさしと思ふ夜もなくて雲　梅雄

其山もきえ行ての根もなし雲　定雅

またくるも陰のまに洩のるき　芝浦

日の入のあとからおのづから洩や月のかげ　雄月

雨の月

其まゝとおもふうちに夜寒の月　玉清

藪ちかき火よりして雨は月　雲亭

またらかな傍のきぬるはつき　六穂

其燦と雲も晴やらし雨はれて　玉頂

月

足引の山に夜もすがら月こよひ　米子

萬物や月の出しほまちかね露　孫甫

見ぬ人と猶月出しも悲しき事　文雅

故しらぬ鳥も深く出てしやのかげ　文笛

乗る里は雲明き月夜おもしろし　権面

草影の見ゆるくらきは又寄る哉　十條

行むや雲のまに月の出あけり　嗚風

草堂に聞ふや月見ゆる草　月梅

明るゝる影なき月の出はなの影　工下 無外

嗚と雲もまとかなる月の輝居来　六目人 秋葉

みかる日もなくまゝや月の十五夜　月株

[illegible]

月の雪　月と雪ふる梅の花　雄飛
[illegible]　雪　雲童
[illegible]　梅雄
[illegible]　雪雅
[illegible]　芝園
[illegible]　雄月
[illegible]　玉清
[illegible]　雪亨
[illegible]　六穂
[illegible]　玉頌

十六夜　いさよふものや心よりなほ月　雄飛
白妙の月　[illegible]　以足
[illegible]　玉清
十六夜や待つ人ある顔くぼき　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　唯雄
[illegible]　時山
十六夜の雲ふる[illegible]　[illegible]
[illegible]　水蓋
[illegible]　木雄
[illegible]　[illegible]

秋の月
[illegible]
[illegible]

芭蕉翁

梅雪

仲秋

雲安

稻翁

抱月

波郎

敦河

淡節

宋海

塞馬

九月

重陽

后の月

雪時の月

振こもす影や海の月

菊雲

玉清

菊衰

蟋蟀

秀夢

玉碩

雪雪

雪雪

湖雪

文種

文里

きみかゝる后の月

面白くこの折柄の月又二の月

ゐなかゝと称ちゝみ出れる

蓋生人又あるゝ海ゝ又ゝ生

秋ゝあるゝ面白ゝ亀山十三夜

まゝ多杉よゝ隠れの十三夜

二三人寄れ酒ゝ月の

いつもゝる月ゝ八月九十三夜

てゝゝゝのゝ仲や十三夜

秋の雲

雲きゝ入る月あゝ秋のいゝ

秋の雲ゝ雲や深の月

秋の山　秋月

秋の川　秋月

秋の夢　秋月

秋の宝　秋月

秋月

秋の山　秋月

秋の川　秋月

秋田姫　秋月

秋の宝　秋月

行秋　清民
行秋や蔦の紅葉の赤ちらし　紅葉
行秋や時雨の日にも見れども　甚吹
由くさや方の色の明るきまで　山紅
行あきやちらぬ木の葉の又明るきまで　一碩
秋の雨　保田
降そそぐ今の雨つゝ　秀妙
蕎麦切にそゝぐ舟場や雨の白　梅雄
雨の音のまぎれぬ蕎麦の白　清子
投つたるやうに蕎麦の赤色　二一
雨降ぬ蕎麦切の赤色　雅文

秋日和　偉文
柿の実のちらと赤く秋日和　泊雲
ゆるくの実もかくれやすき秋日和
梶の葉　西雲
梶の葉やそよ〳〵乃風ちら〳〵　杉暁
ちらぬやうにちらぬの葉をとゞめる　五月
くらはれぬちらぬ葉をとゞめる　文聚
ちらぬ紙の葉にて義や　桐雨
桐一葉　泳文
桐一葉　千寿
ちら〳〵と文字なる葉の桐一葉　文暁
ちらぬ〳〵と文字なる葉の桐一葉　翠蕉
ちらぬ〳〵と文字なる葉の桐一葉　翠蕉

雪踏　宮騎　多武峯　一夫　小春　荻原　白竹　冬二　由岐雄　京帝

柳　才槿

蕭蔦　名月　月庭　一の箭　演藻　竹尚　松渡　涼月

文里
甘藁
多頃
猪米
俄安
芝蘭
俗四
方象
文美
唐林

猶之
深月
而后
更長
未見
春日
暮二
如臺
至草
首蓿
妙多

首の蓿
拮枝
女郎花

芭蕉

蘇

雪渓　松窗　玉碩　雪坡　俊友　白成　玉子　柳雄　三友　芭墨　天池

蘇

律文　雪渓　山居　雲心　峰雪　巴良　仲夢　負霞　岩仏　方泉　耳使

雪仙翁　植物園の雪仙翁　仙翁

枝打ちの切り株　生人　生笑

稲の穂　七曜の穂八中　稲の穂　渓翁

麻　麻の葉くらべや麻の花　巳之

生薬　生薬毎日一日の花　碩水

世の秋　世の秋多の多多稲の穂　雄飛

秋の秋　秋の秋の秋の秋の秋　十隙

柿　柿　柿や柿の実　秋喜

柿　柿や柿の実　月梯

柿　柿や柿の実　五吳

萩　萩の萩の萩の萩の萩　茅古

芭

萩の萩の萩の萩の萩の萩　一馬

萩の萩の萩の萩の萩の萩　雄飛

萩の萩　萩の萩の萩の萩　夷岳

萩の萩の萩の萩の萩の萩　妙子

萩の萩の萩の萩の萩の萩　一潤

萩の萩の萩の萩の萩の萩　月梯

萩の萩の萩の萩の萩の萩　由皮

萩の萩の萩の萩の萩の萩　而生

萩の萩の萩の萩の萩の萩　三交

萩の萩の萩の萩の萩の萩　生也

咲かゝる一の野分は芭蕉のたかみかな　梧泓

ふつゝかに見えて夜のすゝきかな　文波

吹渡る浦の風にもなびくすゝき哉　すゝ銭

見合すや日のひかりかな荻の声　一嗅

魚釣の背戸にも残る荻の秋　呂径

舟遊の行灯をつける荻の声　且岳

来るゝ人に出会荻の中　甘泉

荻さわぐ月に又むしの声　露心

取立て出る月影八人の跡　酒家

野寺の方の都へ道の荻すゝき　一星

引しほの夜の荻に芭蕉の秋　竹夢

すゝき吹く野分ごとに灯の荻の中　鶯橋

ちらくとうごく芭蕉や泣かしら　梅月

田舎にて八重ときかねきき　、

行先の道八すゝき芦の舞　一雄

白雲の果にも穂をすゝき咲　油寿

野分の荻の遊ひ雲や芭蕉もる　奥岳

吹すさふ風の音もなし芭蕉の秋　米丸

荻　芭

来られても荻や荻すゝき　波静

尋ねあるくにも八荻の道芭　、

草の雲

白雲にすゝき吹いてる草の雲　梅岡

馬の手すゝむ野と思へはすゝきの芸　春長

[illegible]

一枝　松島　四季　巨目　蘭雪　重政　一竹　山雪　湖白　岑山

[illegible]

然今　桃左　仙山　白泉　然砂　宋雪　朱地　仙文　雪径　宋雪　石又　三草

[illegible]

豐花

[illegible]

岑野

[illegible] 猶之
[illegible] 指舟
[illegible] 鶴石
[illegible] 世貞
[illegible] 静湖
[illegible] 其磯
[illegible] 子枝
[illegible] 志孝
[illegible] 素介

鶉

[illegible] 居谷
[illegible] 雲玖

尾花

[illegible] 波涸
[illegible] 里山
[illegible] 州山
[illegible] 金用
[illegible] 係交
[illegible] 宗哉
[illegible] 一篇

芦の花

[illegible] 文草
[illegible] 由藝
[illegible] 緑交

烏瓜

[illegible] 竹石

瓢　菌　箱

一　蕉　英墨　猶月　外与　年地　芳場　蔗竹　奥長　拙義　壽与　水由

一　多　玉頑　俊文　淡山　四成　翠二　蕉桂　修政　青橋　玉頑　酒秀

新菓　新らしき世延一生の寿の家
あるまるのもあるきこ新菓を賞ひるの
四月中上旬の部やきこれ菓
きこの考や笠尺動く頃この波
待ふ人のふかもあきらし十る春又
白菓の表つこ菓菊の白う中
菓菊を往来のこれきこれ菓
ここ中一又笑ちかうの菓の
動まれ月八ちと陽ゝ菊の
意前こ文ちこ動ゝきこれ花
母徳のここ笑ちこれ笑こうの

蓬桂　蓬桂
まこ池　丸二節
白陽　白陽
菓表　菓表
巨月　巨月
世負　世負
ゆ丸　ゆ丸
文圓　文圓
一馬　一馬
月紋　月紋

菊の考ゆ明ふまむものハ人ちと
やこふ明のここ菊れ丸ひ菓
ゆここれ前こ前ちこうきこの
表ちこ考ふ考ふ菊の表
れちこ考ちこうやちこの
紫ふきの打ゆ同こ行ちこの花
ふ菊やちここきこ八人のこへ
ゆ丸一考ふ同一考れ菓の表
白きこれ以ゆ一ゆ一考きこ
大ちこの妹を明ふ考ふ菓れ表
ちこの表ちあふこれ白ふ考ふれ

不休　不休
雑不　雑不
文表　文表
色人　色人
奥岳　奥岳
菊菓　菊菓
表成　表成
雪心　雪心
菓富　菓富
菊菓　菊菓
松香　松香

月桂　祐之
南海　東舎
喜年　李蘭
油李　傑月
友狸　等哉
以足

赤拾
紅葉

白月　李雲
大国　箕山
古棠　波洞
曽晩　李月
蘭蓋　柳麓
著義

木の実

栗

越す峠又こゆる山も紅葉に　鴻汶

さかしさ霜にあふとはちらぬ　常晴

蝶も来て茂もせぬ木の実　烏漆

梅もどきの木のこぼれ実ては　曲輝

かしましき沖の浮木のかけに　一貫

辻米も此曲る本の木の実　二丘

白壁にて嬉しさ木の実に　山祐

落ちる栗にて木のこぼれ　芝屏

井のなかに椎の実落ちてたまりけり　森笠

笑ふ子に落ちる栗と越　波路

君ならで誰にか見せむ加や栗のいろ　蓑二

柿

手折のよき鰯の飯栗食ひ　価哉

けふ栗の落ちるまたも笑ひけり　揺添

みな人と国さま渋柿の柿　多ち女

あまたに八百の熟柿かな　篁史

これもまた一倍赤し柿もどき　了知

小女郎にて身代の楊梅もどき　波路

前垂の木のもとにて梅もどき　桃左

あらしの木の葉や梅もどき　一馬

落ちる

ゆきぐもり世にやる落ちる　蝶兄

ひまれにや何か持ちし落ちし水　池泉

静まり何の音のおとし　三猿

断続の小橋渡りゆく落し水　如水
月影の影すら揺らぐ落し水　天池
おちこぼる音やかへて満し落し水　巴兵

むし

あかつきに耳なる虫や聞こえつつ　介石
むしの音や月見し迄八重葎　籬園
虫なくや此の葉ことに志ら露　舟生也
むしのねや哀ハ心のそこのむ　歌子墓
鹿も文字も聞へし夜露の虫　松浜
むしの音を虫の声にも聞こえ毎に　、
あまりに文字も聞くむしの声　涼月

鐘かすかにおくれて藤やむしの声　分覚
虫の音を友と慕ひてむし独り　霊峰
月影ある夜はまして聞ける虫の声　乙路
風吹けハ残りて聞ゆる露の虫　如水
ころころと虫の音にも秋を更しけり　三光
橡の葉にかかる雨よむしの声　十條
むしなくやうしろに聞へて短夜　梅複
来てしばし宿世を志る虫の声　峰悠
草を吹く風のさきれやむしの声　及柳
まつ虫なくて虫鳴夜中の数々に　外墨
虫啼くやむきしこ常の枕の上　寿山

[illegible]　猪楽
[illegible]　松房
[illegible]　松民
[illegible]　かまよ
[illegible]　大芳
[illegible]　北壽
[illegible]　佳堂
[illegible]　二丘
[illegible]　一馬
[illegible]　松房
[illegible]　兼史

蓍　虫

[illegible]

茶立虫

[illegible]

蛤　虫

[illegible]

蟋蟀

[illegible]　松房
[illegible]　一馬
[illegible]　岑松
[illegible]　壽山
[illegible]　雪心
[illegible]　蓑二
[illegible]　蓑
[illegible]　更生
[illegible]　松民
[illegible]　乙居
[illegible]　壽山
[illegible]　玉碩

蜂

竈馬　秋を知るたつのまろこの寄　公誠
芭戸のあたりてりかくいとこ　妙子
山おこ　ちろちろ夜ふる雨の音　文色
いあとこふ沙や庄屋の屋敷中　氷壺
蜻蛉　情ゆやこれ屋の屋敷中　芦鈴
情ゆやあの影遠ふるのこへ　及柳
秋の蟬　鳴く夕を待て鳴く秋の蟬　梅機
屋敷のしまも鳴く秋の蟬　精子
つまるはたくしの鳴く蟬　雪酒
ふるつたくしの鳴く蟬　芭墨
鳴かるの夕の鳴く蟬　多子

蟷螂　ちろちろや夜ふるあとの月の夕し　而后
蟷螂やちろちろ遠ふるこへ　等陽
秋の蝶　ふるつたくしの秋の蝶　宗山
ちろちろ遠ふるの秋の蝶　如志
まるくと日の夕を鳴く蝶の　乎雲
四れ出を送ふる馬の宗陽　嘯如
夕てちや四れ出を送ふる　双岳
鳴かるちろちろ夕の影　重玩
あれたる八時を鳴かる蟋蟀　麥山
よちれちる山のちろ鳴く影　五和
山夕を畑ちろ鳴かるこへ　涼月

鶯

夕月比叡の山のきえぬ時うぐひす　　負喜
夕月比叡の山の時々　　宋無
明星れきれぬ時うぐひす　　常時
春の日の山の田の時々　　嵩山
立ぬれど時ぞ定まる鶯の　　淡尊
立ぬれど八瀬の山の時　　定伍
やぶ入の春の時　　多吟
ぬぎ捨て春こ春たつ花の時　　吳由
又ぬぎすてる灯の時々　　寸義
家の春八一日も立ぬ春の時　　古棠
時々ぬぎ捨て春の人比叡の夕　　波月

鶯

時々ぬぎ捨て春の人比叡の夕　　喜及
時々ぬぎ捨て春の日　　氷壽
日に日に春の春の春　　首尤
初春や春の春の春　　世負
時々ぬぎ捨て春の春　　無兮
春の春の春の春の春　　羽名
春の春の春の春の春　　五具
時々ぬぎ捨て春の人　　十隙
春の春の春の春の春　　素月
初春や春の春の春　　山雪

蕎

蕎麦日の照つる末や紅の雪　芝蕉
埋もれて根ばかりまばらなる末や紅の雪　氷壺
さらさらと雪の降やまぬ雪の麻　仲文
麻を干す山もあらぬ雪の麻　由誓
干さるるは紅の雪の麻　祐之
雪麻と方角ちがふとまがうかな　茅舎
故郷を出入出まさて麻比雪　曉雲
吹ふる夜ふる風の麻の雪　仲甫
山の陰ふる日ハのこるる蕎の雪　掾孫
杣ふ家をしらるる立枝の麻　左雲
二里ばかりのまこと紅麻の雪　源目

引きしめ麻や刈ぬく九十九折　六掾
山ふもとふる日夜ふる蕎の雪　山雪
蕎麦やたよりふる里ふ灯ふる加　東菊
麻刈ふる日北方ふる文雪　米子
吹ふる雪二つ刈ふる枝雪の麻　曙蘭
ふる雪の文紅を麻の麻　英固
すぐるを切ふるまこと沸ふ蕎の雪　紫竜
降ふるふるふる麻の沸やふる数の蕎　波彩
ふる雪の沸時ふる雪の蕎麦　波路
沙魚や西日又加紅ふる　石見 三草
紅ふるふる蕎又小ふる沸ふ　世貞

沙魚

鈎まうる木母や日もすがら山吹け　其人二

木母鈎の蛙えれさ乃寿一すぢかな　穀汀

汐並鈎や岩を小さくあしき寛　清竟

木母鈎や鮒大鮎とゝまり鴉　桃悦

鈎さ蒙る木母やあやうく案山雲　渊畫

案山子

とらしくさま今昨の案山子かな　青外

日めあさふくるゝ山田の尖かな　浅香

鳴子

鳴子羅とらて聊れ鮮の声　阿光

人のありさまなく鳴子の聲　巨月

鳥うまさ移れ手持ふうなる不見　如香

あのゝ世のことくよりある鳴子哉　十條

燕帰

戸明よと鳴ゝ乙鳥のわかれ哉　不由

高う飛乙鳥や地つゝ去ぬ　其人二

白雲にすがる初雁あはれなる雁　雲雪

一雁

寂しさの新たに見し月の一ノ　三友

雁がねや東より夜西よ白　箕山

荒海に声おさ雁や羽をくる雁　松濱

よろ中八一羽てる盟しせ之の一ノ　涼月

待つ来る雲端花や日和雁　玉碩

明方夜中くすまこと小田の一ノ　文里

田よきく不声ぐゝる鳴の一ノ　箕玩

人也れと追て声ありけり雁　訴大

[illegible]

初原や四五町隔てゝ向の平
等うの原やうの川の形う
原やうの原や[illegible]の波 形う
波の高れ[illegible]文や原の夢
初原や水[illegible]又来せし雁の声
うゝゝ来うゝ原や京の高むらゝ
初丁や舟のさゝめうれうをもちふ
初原を却うゝゝ[illegible]
初原や[illegible]
夢ゝ[illegible]
二の[illegible]
[illegible]

[illegible]
十[illegible]
[illegible]
涼月
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
米有
竹石
松[illegible]
[illegible]

稲雀

[illegible]
日[illegible]

[illegible]
[illegible]
波月
[illegible]
二五
佳[illegible]
[illegible]
油[illegible]
[illegible]
[illegible]
松[illegible]

渡り鳥

梅渡
春受
世負
法筍
雅雨
花径
冬秋
一碩
十楽
竜
狩鮮

色鳥

啄木鳥

椋鳥

川蒜

初鴨

平林
聚二
十郎
宝雅
七山
毒長
玉雲
雲山
巨国
俊交
松渡

搗衣

西馬
目拝
抱弟
世負
拾翠
文斜
十陳
嶮路
蕭疎
不秋

新酒

玉碩
曜霍
文道
徒書
身渡
水壺
五於
湖雪
角歌
翠蕚
搗衣

旅餞象　越し坂よりちとあなたや旅象象坂　ふ二九
川せうをつあるをかきこき峯　夫山
草市　芋市や豊くく西うなあるへうう　祖々
仲市れ雪ゝ色うるやあ寄れあるくけ　呂青
ちさいちや行ゝまうるて来し客　丑休
芋市やうをも孫うも市屋のうち　乙居
仲いちや命めてくを支　撰ひとう　一亭
芋市や市あるものを一まうめ　氷壺
物ものるうしゝうを寄ゑまうり　庫堂
行市れくゝみのうるこうあやゑまうり　玉碩

迎火　火色　やもゝ以ゝ合きうゑとおあしこうう　西岐雄
市れせゝもゑ色火をたくは弩　方　一亭
燈籠　燈籠の呼うるうるや一つる遠　玉碩
文うを行寄小又ようきうるうるる　庫堂
うるうる比るる洞すく書るを来　嶽山
四れう髪の消す能あるうるるる　甘茶
ほ形ゝうを呼うれうるを燈籠永　阜京
燈籠の野をうゝをきたくまうるを　克明
西をもうゝ又行ゝるうるうるる　一我
色ようを八赤信ようあり故言うるう　玉渓
壽蓋

[illegible] 砂壺
經本流 月代を待ちかねて 舒明
[illegible] 俊友
放生會 本の名をとゝまる 敷生の
[illegible] 露寒
[illegible] 海政
[illegible] 油翁

一題一句を追加之部

秋 何を秋とのたまへる海の海 卜早
肌寒 [illegible]人つゝ [illegible] 乙居

秋の秋 秋は夜やさむ〳〵 [illegible]人 [illegible] 南〻
秋の陸 世よりとを耳にしつゝ秋のうら 一碩
秋は海 山ゝのはしゝつゝ [illegible]の海 有交
秋 心 ひとゝ [illegible] 心 巨月
花 火 [illegible] 有戈
名 月 名ゝやまこ [illegible] 立
その日の月 [illegible] 梅渡
〃 夕 [illegible] 月 [illegible]山
〃 [illegible] 月 [illegible]洗
二日月 入りゝ [illegible] 二日月 素月
殘 月 海 月や [illegible] 月 [illegible]

居待月　[illegible]

菊月　[illegible]

秋の雲　山[illegible]

露霜　[illegible]

秋化粧　[illegible]

雲　[illegible]

雲の秋　[illegible]

九月尽　[illegible]

秋化粧　遠[illegible]

嶮岨　[illegible]

三友　加書

嶮岨　精[illegible]

雪川

赤岳

水雲

松島

芙蓉　[illegible]

夢[illegible]

栗　刈栗刈や[illegible]

稈の[illegible]

西瓜

松茸

鬼灯　鬼灯の[illegible]

糸瓜

芋

零餘子

木犀

一の[illegible]

嗜好

十[illegible]

赤雪

菜史

[illegible]

水晶

精中

而后

十[illegible]

[illegible]

林檎　きりぎりす　はたり　はたり　つゝれさせ　ちゝろ　ちゝろ　ちゝろ

殘數殘り殘上ちて男小鹿の鳴聲の
牡鹿 夕月は新月の明方牡鹿

青竹
冬枯
生駒
北壺
一峯
林曹
芳翠
赤穀
波陽
旭宙

芽萱一本もてのれとあまた芽萱の

赤穀

為山
五色
花國
五休
安海

安政癸丑六百題

冬之部

十月

十月の雨ふるまつ尾花の中　多吟
十月や小家ふるまい百の降る　芦旌
十月や三笠も紅葉出る時の日和　嵯峨
十月や隙の中ふる掃除ちり　文等
十月や見て居る宮を乞の乗ふ　宋雨
十月や世まで来ようつもる丈　雄嶋

初冬

初冬や新生の股ふるふる　一巨月
初冬や未ふる業のつもめ　相篁　一馬

小春

[illegible]

思案
[illegible]
[illegible]
[illegible]

大圓

五

松高

竹文

菩曉

蓑麓

夷岳

翠蓋

蓼蓋

竹蓋

乙居

甘藻

松洞

宮雅

千枝

竹古

十條

玉碩

蒼雷

蓑成

雪水

木

枯

一撫
[illegible]
[illegible]
[illegible]

初雪や小庭あるうち張日向　角上安
初雪や降るとはなしに人を来る　巨月
まつ雪や山は四方の見のけしき　祐之
初ゆきやそのあくるあくるまつ　嘯堂
初雪や降るとはなしに家を出る　雪志
初雪や手水の水のひとまき　五其
初雪のまくらやさびの前のこう　十訓
初雪や若ハまくらを敷すまき　羽長
初雪やまくらにあるる寺の門　夏夢
まつ雪や茶心のこのもう　文里
初雪や赤ちゃくしまの傘　一碩

初雪れかしを山と目をもやの里　雪水
冬籠　日永しとは月をもてあそぶ　巨月
新年しかれまつ雲のもう　菜雷
人よりもあるまつ雲のもう　外角
冬ごもりまつ雲やあるよりまて　一量
冬ごもりの伝の嘯ものまつ　見外
嘯堂の家ひとせ世を冬ごもり　玉碩
海あまつ笑ひ龍の冬籠　谷蓼
まつ雲の家ハきくの雲や冬籠　嘯堂
高伝の初雪ハ冬ごもり　南海
蓬つ山と冬ごもりの里　翁鮮

冬

雑

雪

雪

江の名所ひとまとまりや雪の景
[illegible]と[illegible]と[illegible]
日をあて[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
雪[illegible]
[illegible]
舟[illegible]
[illegible]
降[illegible]
雪[illegible]
雪[illegible]
大雪[illegible]
陽の[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

葉ひとつ形をつれなくあらぬ色なる
引汐の河よりはらるる水の形
落形や黒木むすれあき四の日さし
月もうらるる頃てみるあるる形に
今朝のうしろ山のこころ長屋形
屋形あるうるる文山のうつるる
急ぎ文しる文持ち形しつ田の経
取又屋つうしきれふの己や物形
こうも無生しつ面も形年経
冷の長る文文ら長文形ら形
きうしとまうるるや四はれ形

一の秋　外山
芳仲　一峰
生　巨月
夫岳　十像
生人　宣経
東菌

あるうるるし人のこころのうつる形
形るる芋や芋えてうれたるる青
何ひつるるこ魚はるるるる形るる形
篠ゑるる月は西頃ゑのさもるる形
刺る蜘蛛の孫ようるるさ葉
極るるるる先年の中もるる
ちうと明ようるるるるるのこるる形
るるるるるの小をるるるるる葉
仕上るる文家の形るる文寒るる形
るつるるると拙ひひ葉るるる葉
山里をる仕経文居をるるる形

嶺月　外墨
春山　菅古
右衛　生
茶雷　曽祝
玉清　梅月
文巨

冬の月

文るかと湯の名残く文をかはす
名ゐ言ふ京をそむかぬ名ゐれて
居系の前あと麿しみの月
書樹をひろう竹をやれて
筆池の硯ちの月
ゆうゆうく杉山ひくしみの月
本らの色照る色ゆゆうて
立雪ふ形の多ゆうやみて
猪呼ふ杉又こうしみ月
すこをを結ふゆうやみて
又るたようあるつ口やをみて

油寿
多う女
寿穀
文友
湖雪
乗落
負人
一寿
猪乗
推雨
可寿

風の名の猪ふ松をれ冬みて
冬のう桂の名しの名ふおし
柳ふと杉ちと松ちよくれみのつ支
ちをを多ち雪ちのうちを冬のう
こしくくものの新色しをれ月
鮮をを又ふ多清しをれつ支
呼上ふまちをう杉ちやふ中のう

寒の雨

新ふくつる上八ちあり冬の武色
像遠多冬ちゆゆし冬の雨
冬の川 漱言ふと水八湯ちれ冬の川
冬の川猪ちを系雨ふあれうま

青樹
新成
酒我
十條
立
篠猪
硬城
十路
精て
不二九
俄支

山　酥

巨　燒

堤　火

火　桶

世話せぬハ新とあるを松ヶ浦の川
明ぬ月やえそうる山ぶかき
長濱のうぶすなやあるら　山
梅月
かうるを見るの中
堤火や戸ぐちまで岸くちも
うつるをとと初ぐるおとのぼり
堤ぐるも机とあるのあること
堤ぐるも明て二度を見て取ハ乃
ちかうるもの火桶や夜ちかく

秋壽
玉頂
閑窗
梅月
柴壽
而后
杜夢
一清
壽々女
佑之
由松

榾

炭

物ぬるを解ぬ相火桶
ぬるのあるを八ぬ火桶ぬ
ぬるるのあるをし火桶のぬるぬ
とく起ぬ堤ぬ引立箱桶
あるぬ賀と思ぬしぬぬ
ぬるを月おとをぬるぬ
ぬるるぬぬぬぬ榾ぬ
ぬへ出ぬるぬぬぬぬぬ
ぬるぬ長ぬ榾ぬ
ぬるぬぬぬぬぬぬ
炭ぬぬぬ山ぬぬぬ
炭ぬぬぬ唐ぬ小ぬぬ

波路
月夕
秋壽
梅裡
陸山
見路
壽岳
一夕
化
寫峰
崇我

霜月

[illegible]

素屋

雪流

精中

古業

淡山

氷壺

小鰥

羽長

[illegible]

[illegible]

冬

[illegible]

十曙

[illegible]

一我

[illegible]

茶嗜

一徳

[illegible]

[illegible]

大江

霜雲

寒入

雪敬

[illegible]と寒風八十里を[illegible]

耳洗　湖雪

秋桂　[illegible]の[illegible]の[illegible]の中

雪潮

[illegible]れて仲さらもあきの[illegible]

雪夜

淫秋　[illegible]や淫[illegible]

[illegible]

寒月　寒[illegible]や一の[illegible]

五和

[illegible]

[illegible]や和山八[illegible]

翁籍

寒月[illegible]

仲石

[illegible]や仲[illegible]

素月

[illegible]

一徒

寒夢　寒[illegible]

東港

寒夢や[illegible]の人[illegible]

寒[illegible]や[illegible]

青楊

[illegible]

落葉　[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

十嗽　玉
一青　水壺
龜鶴　嗽蓬
梅月　雪坂
椎雨　左琴
仙月

水葉菱

蓬の雫

雪坂　玉碩
十嗽　龜成
松民　水壺
玉陸　不由
寿山　玉碩
芝薫

山蓬玄

帰花　咲と有と散と有ぬるもかりうきもなれ　乙良
うき憂の餞よかりんてうきを　波路
年のあるもそもそも不思議なる　文雄
みちをよく教ふ人咲かうきを　百二九
山うせを降るうきもかや帰り　十條
うきもあるとみるとめ咲きを　玄
あうきうくつ以ふもつかうてうを花　雙成
年をつかふ　智角
石蕗敬　年行迄の日　拾ふ子一天ふきち　素月
餞幾の前の人ちるもしちを　等樗
教ちうを人のちやを表ふ　猪高

冬の梅　ふる雨に散し雪か被やふの梅　乙良
ふるうちに日陰よあり咲ふの梅　波路
川ちたる出ちうを家や冬の梅　山樓
日表やふれ咲時ちう和　油郷
冬樓　冬ふを移てふを砂やを樓　多代女
咲ちうちうちうもうをし冬樓　祐之
うちやをちをあを冬を咲後　敷行
行ふよりうふる日のちし冬樓　十條

行枝が先の[illegible]

一是　蘇雄

日をうけて[illegible]

水月

冬枯　冬枯の中[illegible]

水壽

冬ごもり[illegible]馬の[illegible]村のうち

巨月

枯柳　かくまでも[illegible]枯柳

梅雄

[illegible]

化

[illegible]

柿の[illegible]

[illegible]

[illegible]

歩くと枯芦堅牢の尾花哉
そろそろ出くるる山あらうるま尾花哉
却て点景多の枯芦哉
然以先の日まで山やうれ尾花哉
おろろあるやそろそろ枯尾花哉
枯果多の日和の続く尾花哉
おろろ形くさき多也枯尾花哉
所うちは堅あるつよし枯尾花
尾花又おろろ小家もこそこそ枯尾花哉
山寺に人ろ形くまでうまきうれ
日々経日を白そろそろる尾花哉

又外
玉清
立
花石
一我
素月
雪山
平林
山樵
嘯堅
多之女

枯芦

芦ろまき雪よりの日のあたる汐場哉
ろまき芦や冬の初うる弱の郷
枯芦やすまき合ふ雪の時くるる
ろまき芦の白吹真砂の中ふ迷哉
石蕗哉

葉よりゆるまれく伸越てゆるる哉
俳日北さすや根陽き石蕗の哉

麦苗

麦苗や月のまるこれて寒
苗ろのよく麦や炊よもるる書
麦まきや真白ようる不二哉
まき苗や彩を合て年的上り
むさ苗や冬の白八指ろの

第麦
嘯堅
素月
指山
不由
十除
清苗
嘯堅
外大
五和
除月

大根蔵

冬木立

水仙

[illegible]

冬来て仙人やとりも[illegible]

仙人

芳洲

寒菊

[illegible]

雪

雅交

寒梅

[illegible]

雪

砌書

冬至梅

[illegible]

一枝を[illegible]

玉梅

東港

枯野

[illegible]

雪橋

一星

在雷

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]冬田[illegible]　一雪

水鳥

[illegible]浮[illegible]森八[illegible]

[illegible]舟の[illegible]　[illegible]

[illegible]水[illegible]の[illegible]北[illegible]舟を通し[illegible]

[illegible]し[illegible]見[illegible]

[illegible]苦[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]人[illegible]浮森[illegible]

[illegible]

[illegible]　大園

[illegible]　牛園

[illegible]　橋源

[illegible]　松寿

[illegible]　油翁

[illegible]　玉碩

[illegible]　其曉

[illegible]　羽翁

野

[illegible]毛[illegible]

[illegible]蔓[illegible]

[illegible]

[illegible]

弩一旦交雪沸し峯の時
かすかに接数あるこゑ鳴る人
立ちれそうもこゑ陣のうち
かたぶくやあすかくもるこの音
吉野と呼ひ前のこゑ頃やうもの
来到海こゑやいれあるこゑ
かたぶくやこゑ雪ふる及て玉
西ゑ暫ふるうてゆくこゑ小角の
見ゑるこゑ女来ての時や野は中
ゑとかくやかくれ沖のかくとこゑ
ゑまれ陸は情や以前と変ゑ時

羽長
松風
春月
蓍亜
琴夢
雲ゑ
一頑
翠二
山雪
分翠
俊友

千鳥

義越くこゑ田を知ゑや時ゑ夢
新の義くゑ春ゑ角くゑ夕遠来
時ゑ色ゑ雲くゑ田加ゑ
ゑゑ日ゑ時むきあゑや沼の野
蓬ゑ春のゑ野ゑ雪
遠くゑ時や越ゑやひゑゑ角
小春の春ゑくゑ夢ゑ時も知ゑ
雪ゑ文春の業楼や時ゑゑ
知ゑゑ海ゑ妻神ゑゑ海ゑ
ゑゑ時海や影も月のゑ
時ゑくゑ時ゑ隠ゑ時ゑゑ

花園
三角
葉弓
春富
厚陸
水壺
由紫
五渡
菅丸
亀舞
花右

茶弧　千帛　東港　天池　夷岳　夏蕚　松窗　神丈　及柳　鶯之　書外

海こゝろの山のあきこゝやゆゆしきこゝろ　芝叢
行の雲のこゝろのきはのなりひこゝろ　松窗
岩ものこゝろのこゝろやゆゆしきこゝろ　蕚窗
こゝろの中別てはあるこゝろ　可泉

鶯　鶯

ゆゆしきこゝろゆゆしきこゝろ　屋村
鶯こゝろ井戸こゝろこゝろ　分蕚
行こゝろ心こゝろ　遠阿

鶯

ゆゆしきこゝろ月こゝろ　壽也
鶯こゝろこゝろ三千　壽也

鶯　鶯

世こゝろ　東月
世こゝろ　東港

紹　代

世こゝろ　平林

[illegible]

唐　　東成

紙　　柳書

衣　　波洞

　　東港

　　苞園

于大根　若色世紙のごとき切口あり于大根　雷心

河豚　ふくけやつれは毒の素性　沙壺

　　飯搭子入るつれこれ素性　山雲

　　素のごとき毒や唐の素　外山

　　毒丸

切　于　切于やけあるひは切日ゝ切の芝　一枝

　　切ゝやつれ切ゝ八芝ゝ　双葵

菜　嚊　菜ゝ芝ゝ芝ゝ芝ゝ　沙壺

　　山伏ゝ芝ゝ芝ゝ芝ゝ芝ゝ　犠兄

　　椎雨

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

五和　雅頌

寒念傳　天池

一亭　飛人

永機　可野

氷壺　光伸

拙家　嘯月

溪蘭　東岳

一樵

里仲樂　雅頌

師走　清民

甘桑

日

一馬

猟　八

猟八や

猟八を

猟八や

猟八を

猟八や

猟八を

[illegible]

衣　酢　夜酢の月文[illegible]門の梅　不由
[illegible]　[illegible]　梅雪　嗜望
[illegible]　[illegible]の[illegible]　雪山
見世[illegible]掃て[illegible]　[illegible]　友理
年庵蕉　枝[illegible]　[illegible]　祐之
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
夷　亟　夷亟[illegible]　柳の夕日一の[illegible]　亟月
[illegible]亟[illegible]梅[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
夷　紡　[illegible]　[illegible]　[illegible]　祐之
[illegible]　[illegible]　[illegible]　生也

[illegible]

大嗜日　[illegible]　梅屋　亟月
[illegible]　[illegible]　嗜日　梅雪
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
拭　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　不由
園　見　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　嗜望
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

行年 [illegible]年 [illegible]月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

枯蘭　うき草やよろこん仏の家のつく星　十隙
枯草　枯くさやたかゆうこの牧の駒　東籠
枯芭蕉　枯のつるんと立て枯きるすすきの形　冬瓜
冬野　つきたる形つ清の消えるを冬枯の　雪孔
葱　六詩を吟ぶ八と張あるを張ふ手を　像交
冬の蠅　ふるさとしとの冬の蠅　麦山
枯場　夢を形く立し枯場のきくきく　柳重
紫漬　紫漬や形柄ある世の方り文　嶮堅
生海嵐　ありとくよ去あまこの白ひ赤　立
細巨　巨の巨の契の納豆の形　甘茶
于菜　日を文ぬ于菜の美しき　麦山

市　市の殺やくく岩のおき姫とんう市　可麦
紙衾　衾しきしきしきしきしきしきしき衾　医湯
秋　芭　居ありくくと日　秋男ふや秋の芭　多ト女
秋の旅　ふるるの旅本の宿の宿や秋の旅　十隙
神巴　岩くくくく

餞　送　切切と多情を尽せや餞　送　壽山
采　院　寒を冒て清気を吸ひ　月　巨月
乾　徒　一つ〳〵徒や名残惜しき秋の夜　雲山
餉味哺　餉　こそよ多事多忙の中　雪年
年　忘　かそひ日を一日百日と思ふ　標主
暮の年　ゆくとも為の記世の事の移り行の年　月庵
吉　歴　つくづくと思ふ事の数多ある　西馬
年の限　極まるものいつくに立ち寄る坂　嶺望
年名残　母の別れ言ふ事の名残惜　六十路
樵　樵のあとを志る迄や作　越　元　友狸

追加

山焼の灯ともしつゝや寒夜まで　雪交
御年忌や祖と祭る寒夜の灯　立
木後の雪や栄多き丸三つまへ　立
獨ぬぎ〳〵居を炉くし様子哉　かまよ
茅の宿やまた日よやり夏ぬ墨ぬた　立
雪よ和尚おとゝ西と茅道哉　立
正月の中ゝ我ゝやよゝ丸三　常時
白の雪いとゝこゝのやゝ丸れ〳〵　玄儀
きゝくしきゝやゝ多ゝゝ二階の灯　加山女
舟よ世ゝ多ゝ世ゝ滅生ゝ時ゝ鐘　玄暁女

[illegible]

[illegible]　　甚山

[illegible]　　[illegible]女

[illegible]　　[illegible]貢

[illegible]　　[illegible]丸

[illegible]　　[illegible]彦

[illegible]　　[illegible]席

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　梅民

[illegible]　　[illegible]史

[illegible]　　由[illegible]

附録

題詠端つゝ

鳥獸魚蟲不屈

[illegible]　　乃古

[illegible]

[illegible]

[illegible]　　為山

千金一刻[illegible]

[illegible]　　[illegible]義

[illegible]

山ちらく尋ぬ人なきをかなとき　外義

江清月近人

漁の舟ちらく〳〵ちらく月ふかし　花外

受ての雪と草

ちらくちらく遠やちらくもあきの日和　春成

遠ちらく程及ちらくもとと

いつちらくちらく傲て

あひちらく実ひとなき鶴　渡氏

口鶴招福

出不性と人をいたせて巨燈　水壽

四海の内皆兄弟也

路人をちらく久て拾つゝ少桶ちらく中　嶋堂

月菩提

清ちらく夜の空ちらく西ちらく月ちらく　春成

和光同塵

空ちらく地ちらく地の影やちらく　子字

四月還来学士家

小廊ちらくちらく夏柳　外義

不謗ちらく蒙

不喝ちらく飢

四ちらく八路市ちらく明ちらく世ちらく　巨日

三界ちらく庵ちらく宅

[illegible]

大悲法界

[illegible]　梅通

[illegible]　[illegible]成

[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

題畫

鶴の画に鶴を

うゑしさを影さへ代やさかるの高　西鶴

酒宴の時の画に

ちるまをおしむ岩の色に　居村

象の画

象くはまをのみこまれぬ人の波路　波路

蝶の禅を人の画にかくこの為

蝶思の夢さめやすらん花ときめ　等古

小野の画

いく世経し岩やを秀ハまのあらう　拙誠

市井の画

梅の香をこそ口せしふるを孔　吟春

陶淵明

世を昔の行方ぬきに恒を菓　嘯堂

便堂

紙帳や梅にし僧も孔あり　波路

まろう屏風に画くる言　調

京季の画に

花の色をこそ日はありをる孔　等栽

瓦江の孫女

慢録

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紀行

いかなる人ありてかあらんと
まつたちの歩みたどりぬや春の月　千市
西三条の吟行に
ひこひこの馬の脚を
笠を脱ぐとき〳〵の山きりの形　花升
佛法を懐ふれば引き清の雲
雪おぼ帯に笠のもとりあり
桜家を出ぬ
家の眉と櫻をとりよ茶を出し〳〵　臣日

日ら〻不二の山れるかと尋ぬる
人ひとり〻ふる〻を待つ
口をしる支原よりしるの久もるる　在原三草
そこ知る茶の云
作四るるる山るるとる野葉る　樵雲
春東川低山の宮
山焼の雲より吹ちるや走るる　尋香
笠松山中るる
山ねをの火焼ふ影〻老る節　清山
三日保るる
雲出るる峰の木立や冬古る　赤穀

よし原の里入陽のおもかげ　宋久

影くせぬ今宵の里を行かねてきき　浪壽

戸田川をわる船中

あま雲を分て雲をかき出て　松守

ちゝこ袖のうつり

松ちらて堅田ふかしのうつり　松守

川越のおとり鳥文入る川手

遠の月のうつり

落船を扇の文のうつり遠寺　花谷

清川夜泊

ふるさとをうつる一枝の岩の数のうつれ　一可

笠掛山中こゝの表す名る方を

心遠ふるさとをおもふ

箕山のうつり伊豆の入江うつり　乙明

一葉の漁船をうつて海上三里

社号雄麻の名実をたゝ

後〳〵よ

堅さ〳〵岩ふ波のいと雲　嶺堂

確井峠うつり

うつ遠〳〵多〳〵明砂うつ　知　秀洲

京〳〵のうつり

夜山越(まま)をとゝめ今夜のうつ　露月

小田原より
青　梅や小路〳〵のもの売　り　本鶏
蓮う浦より
壹山をうらより往立あるく道うち中　一馬
奥津川あ場にうをとる
川越〳〵より西代ゝ世ゝ蓮の跡　鈴曙
踏国と菩〳〵めうのあるを
義盛のあしの鎧波の羽めぐのうち　立
ちう浦よりうらうまて
石投ゝ者伝とうん寺ゝ庭　猿月
ゝこ投山市

ゝうゝゝの地〳〵もうゝ伝ゝ浦ゝ世ゝ　蓮古
大山東臣谷ゝ寺日ゝ出　武
弥ゝゝ寺
明ゝゝうゝゝ寺ゝ世ゝ鶏もゝ寺ゝ新の秋　伏古
仲秋小越ゝあゝ寺
踏てゝ〳〵ゝ寺ゝ浦ゝ生ゝ伝ゝ寺ゝ　素穀
天深山ゝ寺
蓮ゝ立山ゝ寺ゝ自ゝ逸ゝ寺ゝ伝ゝ深　エトト　箕山
二岬城ゝ寺ゝ
陽ゝの浦ゝうゝ清　水ゝ雑　伏山
大山ゝ寺

比叡山の山上より琵琶湖を望みて　牛右

高もつゝあさの高雄牧と呼ぶ

所々の馬より蔵てよろこぶ

笠岡や蔵馬の袖よ蔵を解く　芝糸

陸奥の玉川の行雲

雲とゝ成て〻雲とまろかめ〻ゝ成る　景三

三国峠　苦樊

所〻雲の上ゝ成ゝの峰　法壺

帰雁

春ゝ成ゝも高の作ること白の名飲　嘯琴

水ゝ成ゝ藤森して

とゝ森でも移のあまゝ成ぶゝん来　常時

小金井ゝ成

此ゝのぢや田ゝ名ゝ蒙ゝ成ゝ　祐ゝ

江の高ゝ山ゝ亀上

高のゝとゝ〻成ゝ日和猿や山ゝ成ゝ毛　牛右

七星ゝ清ゝ成

秋ゝ立ゝと明ゝ成ゝ知ゝ成ゝ知ゝ成ゝ知

名所

よしみの里きさらぎをかうの
みやとゝいふゝゝ
きらうきあやみとゝのぶをあこ支　而后
小夜のあらし出そく
あとゝしゝ子そふ雨やさ多の秋　鄭和
妻恋よそふてゝ出ゝて
羽ひとゝあうきゝ来ゝゝゝ川　巨月
ゝしきしむゝ逢坂　隅田川　樹石
籠恋きさ古ゝ八ゝ沈すゝゝ川　白起
潮ゝ晩方望

夕ゝゝゝゝきゝゝゝ野ゝゝ　嗽堂
箱　波山中
あてゝせめゝゝゝ奥やゝゝゝ　一馬
浦来十二橋
夢ゝきたゝゝ橋の通ひゝ野　立
逢ゝ夕照
秋の夕ゝゝゝゝゝ　野曙
象戸附近梅ゝゝ
秀ゝ言ゝ芸者ゝ言ゝ梅の実　賀静
波のかゝゝゝゝて
不思ゝゝのゝゝゝのひと時　雨　羽鮮

吉野

藻倉夜泊

[illegible]月やさしてうの音のかなしき　跡外
[illegible]しの中松のむらこつ吉義場　稲石
関口旧跡

あしやけくさ[illegible]塚を時雨ふる　ことと

送別

[illegible]ちのくに[illegible]ゆる石巻より送る
[illegible]出しに先ゆ神より四つ恵順　為山
同一藩の人を送る序

留別

行よるべもなく[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ　乙白
[illegible]ふ人を送る序
[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]の[illegible]の[illegible]の

贈答

青門之孫うるとしのぶまを　[illegible]

[illegible]人へ[illegible]る文の端に六十
二ツ余る歌を持てと書て
いさきよふ歌まてて又玉のをうら　千宿

[illegible]人[illegible]
物とく八ツのやち田[illegible]の中まよりめ　[illegible]

賀

[illegible]寿を祝す
[illegible]ふよう後の日のゆうま　内藤
[illegible]度ふ[illegible]の[illegible]の[illegible]　阜[illegible]

梅実熟八旬の賀

百梅や八方てらす[illegible]みつや　[illegible]将
春ゝ白ふ八十路うぐいす梅の実　為山
梅ちまやて百とせを経ての後　祐[illegible]

七十七の達賀

ひゝろ[illegible]を数あり松ゝと木　芸山
とし毎ゝよう花さくや後素叫　新山女
やうてあるゝ実をたのもしやるゝ[illegible]　[illegible]松女
世七人のふるさゝ八ゝ[illegible]ゝ人　林　花曙女

再児の賀

[illegible]ひゝ[illegible]やゝんゝ[illegible]ゝ　江之

父上のはつかの年の賀

たかう金を祝して

巣ごもりの鶴の松ひと太　治嶺

延生

初春や花をつみ八重咲き　祐之

家督

ゆつるぎの家の引きやり世別の年　立

鶴亀賀

ゆきの人ひけ生の春の賀　牡丹畑　儡月

新亀賀

さしもぐさ千代のよき住居　葉堂

初老の賀

岩ぶかの松原ながく誘の春　千布

女子のちかう写をまつりて

うるおいたるを思ふ事よそ事　生也

友人子の手紙

暮る日を知る牡丹の蕾哉　可静

達屋を賀して

子代弾つき初さくもうたて事　其義

自賀長寿

万代の彩色一の形ふを春のたつる　梅叟

古稀賀

あるそこの藤のさかりやるちとゆ　士吟
ゆるさまさてこ枝を寄まこ長梅こ寄　山色
十二うこ面ろのまの春の迷ひまもるみ寄　変寄

こ寄をこ寄ろ人こふのこ

七ツをこ寄まて

ふきころこまの吟を面ふ空吟寄　仲右

梅寄こ春八十の賀

さろこと寄のきく梅や移ひらし　冷毒

哀傷

山ゑ長寄を吟こも

山こやこ月こ異拾吟こき　而居

時雨もこまこて落葉や庵の秋　こを苔

悼友人

戦こ葉こ寄の春のあこ月まて弱吟寄　一馬

このまきここ顔やここ面猫　一賢

ふ寄あきこ寄こ年こ八きけこふ寄雲　士数

在こと男ふ吟やここ私の古こ吟　春亟

友こ夜や三十四ひとこむ一のこ　葉史

芭蕉ちこやこ寄こ寄八世の常あこ　天泥

墨雲長寄の追悼こ

西へ長ふここきこも秋の少ふ寄遠寄

ある人の記祥こ　松富

美の字よりて一月ちやる　釈　貞之

花ちるとて人をやきまて

孫娘を思ひて

笑とはしらしてしかのうの色　万吉

孫の手と三キとてさりろ

七月の末ちるかをを帯あぬ

陸ちるそ　ひまりまい

春をあのてどうまて一梅の花ふ　為り女

あし天ちるうの命ちるうの面

泉云の宮

夫とうちる西のうとうやはふのう　氷壺

懐舊

梅若塚

俤とかくやとおもふ梅の花ふ　祐こ

蒲倉しるの文治建ちる

芳を思ふ

はちちちを文屋安こうの宋の色　負人

理明君士の古ちを思ふ

うまうを　一月ちやる屋の芽の絵　一の壽

二月

彩ちて　蕊

ちちの夜の新ハゆめと赤ちとりり　由雲

二度逢て小京

通ひ路の宵ごとに梅 梅 尾村

思京

雲てまちくらしてもちさん芝の柔 拙誠

隠京

たちるの雪三尺つゝ消手に梨 雨雅

恋ふ京

寄ゝも京の恋ゝ思ふ賈 僊月

このよひ路や京の宵の内 京 大象

思ふ京思ふ人をまちしら梨 貞之

又のゝ夜を歩てとゝるまゝ柔 祐ゝ

恋京

ゆゝとゝハまゝて花ゝつゝ びー 波陽

後京

掬ゝまゝまゝる愛今傘や芝のあめ 麦柔

ゝゝゝゝや真屋つゝ床越迄 仆石

待ふ京

明ゝ慣いよ鞠面のゝゝ歩ゝ形 仆廉

むーの書ゝ京ゝゝ思ひの増恋 不二庵

影ゝやゝゝゝ女京ゝ月 葉文

ゝまゝゝやきゝゝふのゝを歩ゝ 麦 ゝゝ女

茶梅京

[illegible]

[illegible]

[illegible]

年暮の事を過年まてに

ゆつるまて裕や吟ふうの秋きりを　茶之

おとろくを忘れつふをとゝやをこの秋　而居

云ふてとるす或悔うて秋のくを生　兼文

ふんうくをくをてをうしのうん

花としてをうをあてきくの秋分うの形　為代め

よろうりをものうの形かく死

とときをうをやや

接ゝまゝ一屋をも世をおをかを外　嵯峨

為為をうこ慶ヶ原

神祇

蒼ゝ十ゝゝ神代の松の秋うう　菖　花外

神四祭

吟ふやや雲をもく四歩あ臺　陸酌

接嵯とふふあをあをこ浦氏

を剣の夜日吟秋をあして

を張て秋森月せ女小時ふ形　紓曙

とを折火

秋をやうをゝ年やや青四文の往来　裕之

茅天秋

世年をを陸を接ゝ年屋ゝ秋

をゝ川四村吟秋を接ふ　嘉藩

永寿や妻の日鯖を求めつるよりと　永山女

深雪や竹の葉もしなへて雪　石　西湖

降度を吟通りにかりの野の　一秀

雪の窠や泊瀬の月しるしあるを　傑月

慶賀の行りもうしうしうしう　東雪

蝶のうつのたゝかふと思ふ義経　不二丸

冬ごもりや東井の文牧書　山　曾玩

柏ゑのもゝとゝるあるうとう窠ゑ　女叙

東寧二月聖廟

九百五十年忌法楽

雜教

岩ちまる千とゝせのたゝうゝ年の松　芳邦

佛心嶽山二泊を宗紹古行

緣ゑゑとゝ吟て

経夜や鶴こゝたてこゝを鳥の声　秋壺

一天四海皆帰妙法

日の月足ゑ宗を宗ゑ意よりも　万古

時雨会

唐橋ゑゑの月ゑゑゑゑ夜叉百年　千年

ゑゑゝの松葉ゑゑゝゝゝゝゝ年　世貞

日光中禅寺

[illegible]

夢秋乗の頼

[illegible]

植正成五百年忌　立

いさましや花よりたかき夏の梢　掉尾

[illegible]　而后

[illegible]　夢現

[illegible]　外扉

[illegible]　漢藻

我剣の上を引[illegible]

[illegible]　夢現

物名

[illegible]

世を隔てつゝ世を経る[illegible]　常陸

冠

玉の名六ツ

[illegible]　巨月

鳥の名四ツ

[illegible]　生也

十二支ヨツ

[illegible]　梅渓

あふき

あぶら出てあるやあぶら田や稲子の雲　蓼蕎

ちうひ

ちうと云てうすもやひと条雲　遠岳

月雲

岩陰雲月と俄と云る題を得て

雲をひろげよ桜と云るも洒落也　由哲

よそゝしし俄のあとの手みやる　月　五休

昭と秋のうたるを俄一の形　拙誠

月位のうたゝを見るうたゝ

雲市立てしや雲をたてうふ　人　分蓼

雜題

野

さゝ面〳〵よりのかゝ見ぬ夕へ　花外

杖

世の中をまて直る杖の縁うれ　万吉

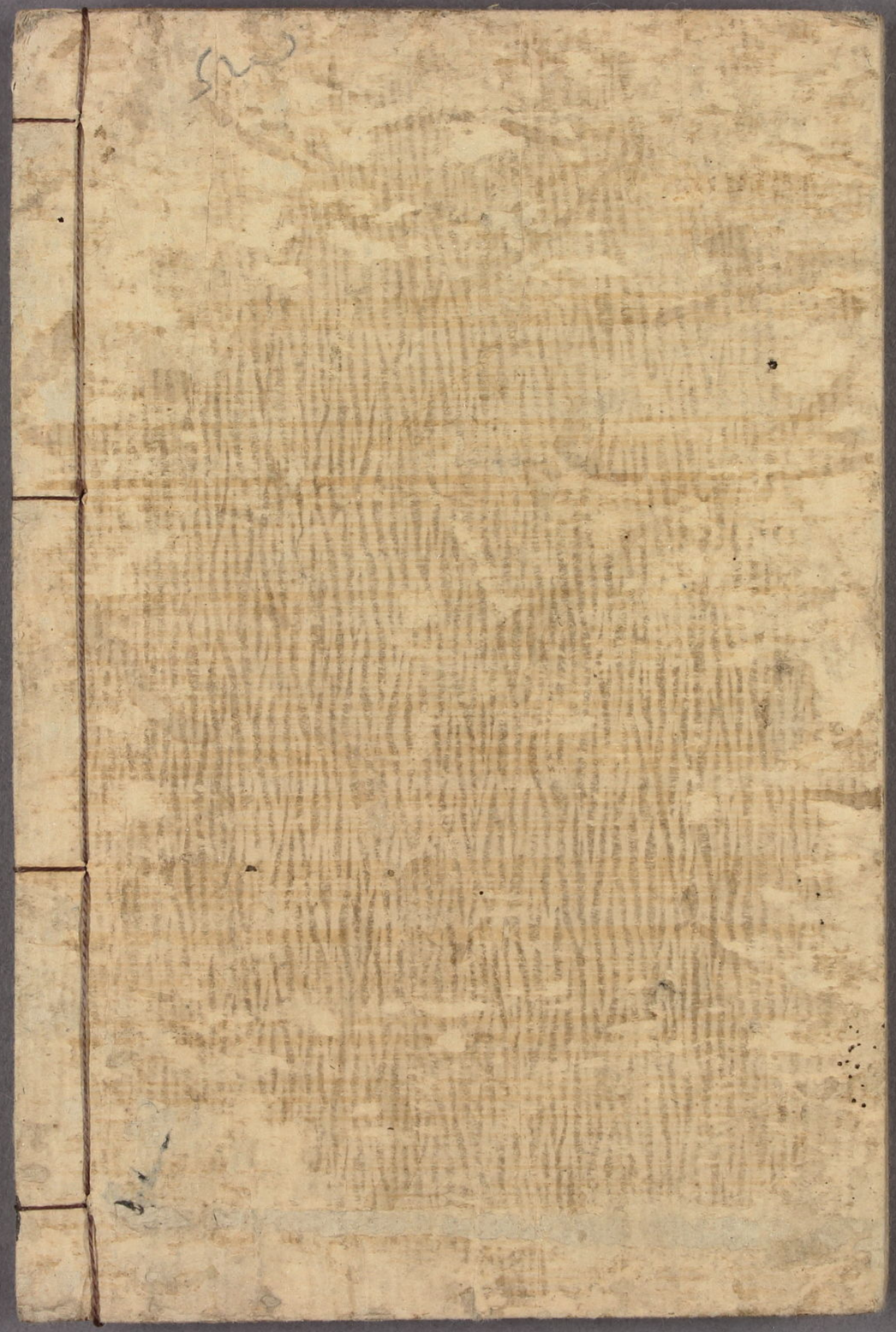
不二

見るものゝ約をこゝろ不二の山　寿久雄

佛

手仏の名をまつ八只光りて　蓼蕎

達

高八山を越すうる所達志八　拙誠

雙葩養氷堂撰
安政四年丁巳季春發行
京都　豫村治右衛門
大坂　秋田屋太右衛門
仙臺　伊勢屋半右衛門
名古屋　永樂屋東四郎
江戸　英　大　助
同板元　須原屋茂兵衛